

スズキ、2016年3月期第3四半期決算を発表

— 増収増益・各利益過去最高 —

1. 第3四半期決算の業績概況

当第3四半期の連結売上高は2兆3,556億円と前年同期に比べ2,126億円(9.9%)増加しました。国内売上高は軽自動車税増税の影響やOEM売上の減少により7,535億円と前年同期に比べ203億円(2.6%)減少しました。海外売上高はインドでの四輪車の売上増加等により1兆6,021億円と前年同期に比べ2,329億円(17.0%)増加しました。

連結利益の面では、営業利益はインドでの増益等により1,462億円と前年同期に比べ110億円(8.2%)の増加、経常利益は1,628億円と前年同期に比べ184億円(12.7%)の増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,023億円と前年同期に比べ224億円(28.0%)の増加となりました。

2. 各セグメントの状況

四輪車事業につきましては、国内売上高は軽乗用車「アルト」、「アルト ラパン」が前年の「ハスラー」に続き2年連続でRJCカーオブザイヤーを受賞し、さらに2015-2016日本カー・オブ・ザ・イヤー「スモールモビリティ部門賞」を受賞するなど大変高い評価を頂きましたが、軽自動車税増税の影響やOEM売上の減少により、前年同期を下回りました。海外売上高はインドやパキスタンでの増加等により前年同期を上回りました。この結果、四輪車事業の売上高は2兆1,307億円と前年同期に比べ2,137億円(11.1%)増加しました。営業利益はインドでの増益等により1,464億円と前年同期に比べ127億円(9.5%)増加しました。

二輪車事業につきましては、売上高は欧州やインドで増加しましたが、インドネシアでの減少等により1,729億円と前年同期に比べ70億円(3.9%)減少しました。営業利益は品質関連費用もあり前年同期の営業損失50億円から営業損失101億円となりました。

特機等事業の売上高は米国での船外機の売上増加等により520億円と前年同期に比べ59億円(12.9%)増加し、営業利益は99億円と前年同期に比べ34億円(53.0%)増加しました。

所在地別の営業利益につきましては、日本は研究開発費、減価償却費の増加等により前年同期に比べ347億円(36.8%)減少しましたが、アジアがインド、パキスタンでの四輪車の売上増加等により823億円と前年同期に比べ399億円(94.3%)増加しました。

3. 連結業績予想

連結業績予想につきましては、当第3四半期の実績を踏まえて各国での販売台数や為替等を見直しました結果、連結全体での売上高、営業利益、経常利益は前回予想から変更ありません。なお、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、来年度の法人税率引下げによる繰延税金資産の取崩を反映し、前回予想から50億円下方修正いたします。

当社グループは一丸となってあらゆる分野での改革に取り組み、連結業績予想以上を達成すべく事業活動を展開してまいります。

(連結業績予想…通期)

売上高	3兆1,000億円	(前期比 2.8%増)
営業利益	1,950億円	(前期比 8.7%増)
経常利益	2,050億円	(前期比 5.5%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,200億円	(前期比 23.9%増、前回予想比 50億円減)

(為替レート) 1米ドル=121円、1ユーロ=133円、1インドルピー=1.86円、
100インドネシアルピア=0.89円、1タイバーツ=3.44円

以上